

中央大学・エクス=マルセイユ大学 交流40周年記念シンポジウム

本学は、1978年に、フランスのエクス=マルセイユ大学（AMU）との間に最初の国際交流協定を結びました。以来、今日にいたるまで、両大学は、相互の学生交換、研究者交流を活発に行ってきました。

両大学の交流40周年を記念し、研究教育上の交流が今後一層深まることを願って、下記のシンポジウムをオンライン（Webex）で開催します。

日 時：2020年11月7日（土）17:00-20:50 <日本時間>

形 式：オンライン会議システム（Webex）

使用言語：仏語、日本語、英語（資料・通訳あり）

テーマ：**グローバリゼーションへの抵抗**
les résistances à la mondialisation

グローバリゼーションは、一方で人、物、資本、情報の国境を越えた自由な移動を促進し、私たちの生活を豊かにしてきました。他方でそれは、資本の独占的集中をもたらし、社会的・経済的不平等を拡大し、地球環境を悪化させ、特定の文化の支配的傾向を強めてきました。グローバリゼーションがはらむ問題は、複雑かつ多面的であって、一括りにすることはできません。

本シンポジウムでは、グローバリゼーションへの「抵抗」に焦点をあて、グローバリゼーションへの「抵抗」が法と政治の分野でどのように生じているか、そこにどのような課題がみいだされるかを考察します。

【申込方法】

<https://forms.gle/gYDa8w5FkTUTusow6>

Google フォームにアクセスし、事前に参加登録をしてください。

シンポジウム開催前に、登録いただいたアドレス宛に、Webex へのログイン情報をお送りします。



Google フォームアクセス用QRコード

【問い合わせ先】

中央大学社会科学研究所 TEL 042-674-3276 / E-mail shaken-grp@g.chuo-u.ac.jp

【共催】中央大学社会科学研究所、日本比較法研究所、中央大学法学部、法学研究科

プログラム

祝 辞：福原 紀彦（中央大学学長、法務研究科教授）
白井 宏（中央大学副学長、国際センター所長、理工学部教授）
猪股 孝史（中央大学法学部長、法学部教授）
司 会：西海 真樹（中央大学社会科学研究所長、法学部教授）

ジャン-フィリップ・アグレスティ

（AMU 法学部長、法学部教授、法制史）

「グローバリゼーションへの抵抗：フランス家族法を例として」

コメンテーター：カ丸 祥子（法学部准教授、民法・フランス私法）

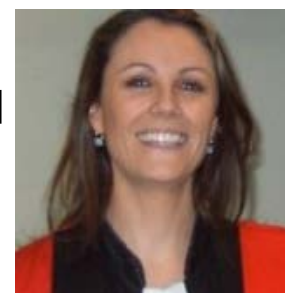


ヴィルジニ・メルシエ

（AMU 環境法・持続可能な開発法研究所長、法学部准教授、企業倫理・企業法）

「過度のグローバリゼーションに抵抗する会社のガバナンス・モデルに向けて」

コメンテーター：伊藤 壽英（日本比較法研究所長、法務研究科教授、企業法）



エヴ・トゥリュイレ

（AMU 欧州国際研究所長、国立科学研究センター主任研究員、EU 環境政策・環境法）

「環境保護のグローバル化における EU の役割：影響と抵抗の間」

コメンテーター：牛嶋 仁（社会科学研究所研究員、法学部教授、行政法）



ジャン-フランソワ・マルキ

（AMU 国際交流担当副学長、法学部准教授、国際関係論・国際法）

「国際の平和と安全の分野におけるグローバリゼーションへの抵抗」

コメンテーター：西海 真樹（社会科学研究所長、法学部教授、国際法）



ロスタンヌ・メジ

（エクス政治学院長、政治学院教授、EU 政策・EU 法）

「法の支配の世界化へ向けて：勝負はついたか？」

コメンテーター：亘理 格（法学研究科委員長、法学部教授、行政法）



総括報告：植野 妙実子（中央大学名誉教授、憲法）

閉会の辞：大貫 裕之（学校法人中央大学常任理事、法務研究科教授、行政法）